教科等横断的な視点を取り入れた授業実践

音　楽　科　　第１学年

《教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成》

○　学習の基盤となる資質・能力の育成について

本題材は、合唱コンクールに向けて構成した題材であり、A表現領域の歌唱の活動を通して、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解すること、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と併せて歌う技能を身に付けることをねらいとしている。

中学校に進学して初めて本格的に取り組む混声合唱に主体的・協働的に取り組むことで、音楽活動の楽しさを体験し、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていけるよう、国語科との教科等横断的な視点を取り入れた授業実践を紹介する。

・言語能力の育成（※問題発見・解決能力の育成）

本実践では、以下の二点を中心に、言語能力を育成していく。

一つ目は、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解すること、二つ目は、創意工夫を生かした表現で歌うために、生徒がもつ思いや意図を伝え合う手段であるコミュニケーションの一つとして、音楽的な見方・考え方を働かせて知覚・感受したことを音楽語彙を増やしながら伝え合うことである。特に、合唱をつくりあげていく中で、生徒が曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫していくことは、生徒が自分たちの合唱の課題を見いだし、思いや意図に合った表現になるよう試行錯誤していく過程として重要であり、問題発見・解決能力の育成にもつながると言える。

そのために、国語科「詩の世界」の学習で歌詞の内容について分析し、詩の内容を理解すること、鑑賞の評価文を書くことで、根拠をもって自分なりに批評すること、根拠をもって伝え合うこと、感じたことを伝えるための語彙を広げることを本題材の学習と関連付けながら言語能力を育成していく。

・情報活用能力の育成

本実践では、以下の三点を中心に、情報活用能力を育成していく。

一つ目は、曲ができた背景や作詞・作曲家の思いについての情報収集、整理、分析をすること、二つ目は、端末の操作スキルを身に付け、演奏した動画を保存し、何度も繰り返し視聴して、よりよい音楽表現に生かすこと、三つ目は、著作権（知的財産権）について知ることにより、著作物への思い、著作者への敬意をもつことである。

そのために、国語科で学習する情報収集や整理、構成の工夫について、「集める・整理する」「組み立てる」「表現する」内容や単元「情報社会を生きる」での学習（「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」「情報を囲繞しよう」「著作権について知ろう」等）を想起させながら、情報を正しく読み取ったり、自分なりに整理したりすること、端末を操作する中で情報モラルを含む情報活用能力を育成していく。

※本事例は、国語科の授業実践と対応しているので、国語科と併せて御覧ください。

1　題材名「曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう」

教材名　「そのままの君で」　　作詞・作曲　松井　孝夫　※合唱コンクール課題曲
「絆」「あさがお」他　作詞・作曲　山﨑　朋子他※合唱コンクール自由曲

【本題材で取り扱う学習指導要領の内容】
Ａ表現（１）歌唱の事項　ア、イ（ア）、ウ（イ）
〔共通事項〕（１）ア、イ
・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
音色、旋律、テクスチュア、強弱

2　題材の目標

○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聞きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。〈知識及び技能〉

○音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌唱表現を創意工夫する。〈思考力、判断力、表現力等〉

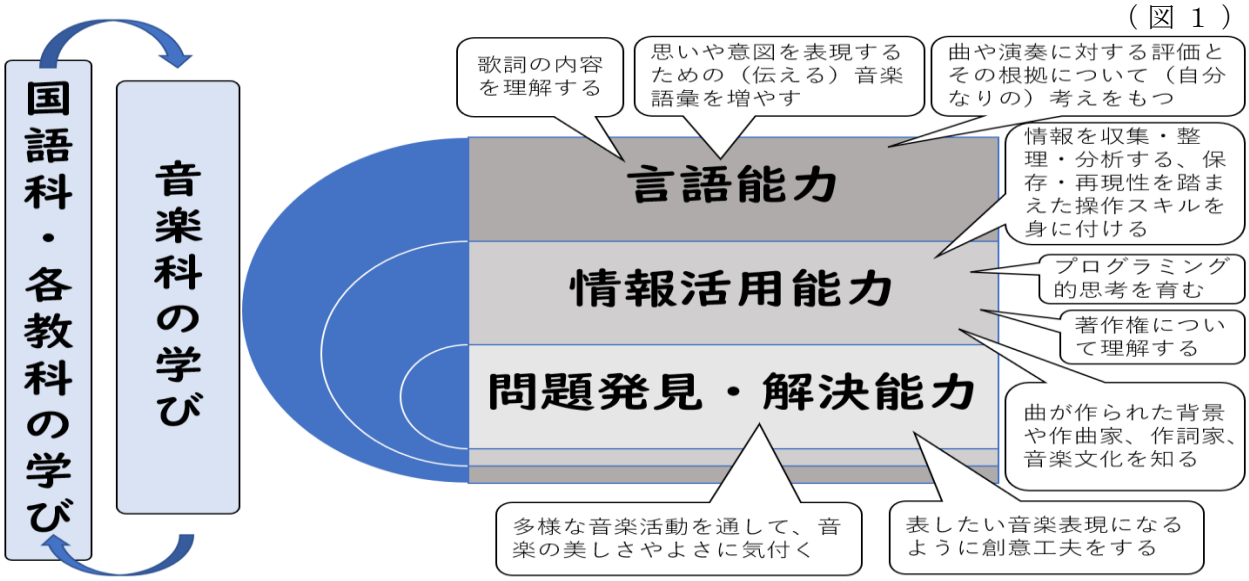
○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、合唱に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

3　教科等横断的な視点を取り入れた授業実践について

教科等横断的な視点で教育課程を編成していく際に、多くはその内容でつなぐことが多い。しかし、各学校の育成したい資質・能力、生徒の発達段階を考慮しつつ各教科の特質を踏まえた資質･能力でつなぐことを目指したい。

まず、音楽科における育成したい資質・能力について、学習の基盤である言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力について、国語科の育成したい資質・能力と関連する具体的な事例を以下のように整理してみた。

（図１）



（図１）音楽科で育成する国語科と関連した資質・能力と関連する具体例

次に、中学校１年生における音楽科、国語科の「身に付けたい力」をもとにした資質・能力の育成について、本題材を含む前後の題材構成を踏まえて、次のように整理してみた。（図２）

【音楽科と国語科を中心とした教科等横断的な視点による資質・能力の育成】

音楽科	題材	育成したい資質・能力
鑑賞	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう	・**曲想と音楽の構造との関わり**について理解する。 ・曲や演奏に対する**評価とその根拠について自分なりに考え**、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
鑑賞 創作	イメージと音楽との関わりを感じ取ろう	・**曲想と音楽の構造との関わり**について理解する。 ・曲や演奏に対する**評価とその根拠について自分なりに考え**、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
歌唱	**曲想やパートの役割を感じ取って歌唱表現を工夫しよう**	・**曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容**について理解する。 ・それらを**生かした歌唱表現を創意工夫**する。
歌唱 鑑賞	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	・**曲想と音楽の構造との関わり**について理解する。 ・曲や演奏に対する**評価とその根拠について自分なりに考え**、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
歌唱	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	・**曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容**について理解する。 ・それらを**生かした歌唱表現を創意工夫**する。

国語科

〔A　聞くこと・話すこと〕
エ　必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。
オ　話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

〔B　書くこと〕
ウ　伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

〔C　読むこと〕
ア　文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。
ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。
カ　本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

【言語活動例】
関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。

（図２）本題材をつなぐ題材構成例（音楽科と国語科の育成したい資質・能力）

（１）題材で育てたい力　※題材の目標と重複するため主なものを記載

○曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容について理解する。
【音楽：知識及び技能】

○楽曲について調べた情報を収集、整理、分析し、作曲家・作詞家の思いや歌詞の表す情景から表したい曲想表現になるよう思いや意図をもって曲想表現を工夫する。【音楽：言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力】

（２）教科等横断的な視点に立った育てたい力

○事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする。比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の方法を理解し、使うこと。【国語：知識及び技能】

○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
【国語：思考力、判断力、表現力等】

○教材曲を鑑賞し、感じたことを文章に書き、友達と共有することで自分のものの見方や考え方を広くする。【国語：言語能力】

（３）共通の育てたい力

○歌詞（詩）の内容を理解する。

○情報を正しく読み取り、自分なりに整理する問題解決の過程で、端末を操作するスキルを身に付け、よりよい音楽表現に生かす。【共通：情報活用能力】

○課題を発見し、学んだことを生かして解決方法を考え実践し、伝え共有し、振り返ることで学びを深める。【共通：言語能力、問題発見・解決能力】

（４）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現 **※言語能力　※情報活用能力**	主体的に学習に取り組む態度　**※問題発見・解決能力**
知　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技　創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聞きながら、他者と合わせて演奏する技能を身に付け、歌唱で表している。	思　音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

文部科学省の「新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について」（令和元年度地方協議会等説明資料）では、教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力についての評価は各教科等における観点別学習状況の評価に反映するとある。また、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力など教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力は、各教科等の学習の文脈の中で育成した上で、横断的に発揮されるようにすることが重要であり、各教科等の指導と評価の一体化を図る中で資質・能力を育成した上で、それらの資質・能力が教科等横断的に関連付けて発揮されるようにすることが重要としている。したがって、各教科等の評価規準とは別に、教科等横断的な資質・能力に関わる評価基準を設定して評価することは必ずしも必要ではないことも書かれている。

そこで、本実践では「言語能力」は、歌詞の内容を理解し、学習者間の対話的・協働的な学習においてコミュニケーションを通して育成することとしたため、「思考・判断・表現」の評価の中で行うこととした。また、「情報活用能力」は問題解決の過程で、個別の知識をどのように相互に結び付けるか、どのような知識の追加を必要とし、どのような方法で知識を得るかといった「思考・判断」の過程で発揮されるため、「思考・判断・表現」で評価を行う。さらに、「問題発見・解決能力」は音楽科や国語科で身に付けた力を統合的に活用することの中で発揮されるため、「主体的に学習に取り組む態度」で評価することとした。

４　指導計画　（７時間）

※本題材は、合唱コンクールを踏まえた題材構成のため、１学期（７月）に１時間、２学期（９月）に６時間で題材を構成している。夏季休業中に調べ学習を実施する。

次	時配	○学習内容　・学習活動 **★教科等横断的な学習活動**　☆〔音楽を形づくっている要素〕	評価の観点〈評価方法〉 知・技	思	態
第一次　見いだす		◎楽曲の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。			
	1	○楽曲の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ・CD で教材曲を聴いて印象を自由に話し合う。 ・歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに書く。 ・書いたことを基に学級全体で共有し合い、他の生徒の感じ方やよいと思ったことなどを随時書き加える。 ○楽曲の音楽の特徴に気付く。 ・二つの楽曲を聴きながら、それぞれの音楽について気付いた特徴を協働編集アプリに書き込み、新たな気付きを見いだす。 ☆〔音色、旋律、強弱〕			
	国 1 2 3	**★「情報を集めよう」から、情報の集め方、調べ方、読み取り方、引用の仕方について知り、実際に情報を集める。** **★「著作権について知ろう」から、著作権を守ることや著作者に敬意を持つことの重要性を知る。** **★様々な芸術に関わる鑑賞文の書き方を知り、理由を添えて鑑賞した感想を書く。（学習後、常時活動とする。）** **★書いた鑑賞文を他の生徒と共有し、見方・感じ方を広げる。**	夏季休業中に情報収集をすることで楽曲への興味・関心を深める。		

第二次　自分で取り組む　広げ深める		◎パートの役割を感じながら合唱する。			
	2	○楽曲の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。 ・楽曲を歌ったり、CD で聴いたりして、音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴を楽譜に書き込んでいく。 ☆〔音色、旋律、テクスチュア、強弱〕			
	国 4 5 6	**★「詩の世界」の詩を音読し、感じたことを友達と交流する。** **★書かれた情景や表現の効果について話し合い、詩について最も心に響いた詩と、どこによさを感じたのかを書き、交流する。** **★合唱コンクールで歌う楽曲（自由曲）について、歌詞の内容を読み深め、内容を書き表す。学級全体で交流し、読み合って感想を伝え合う。**	題材を入れ替えたり、実施時期を調整したりするとよい。		
	3	○楽曲の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 ・楽曲について知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。 ☆〔音色、旋律、強弱〕	ワークシート 知 観察・		
	4	○自分と同じ声部の他者の声や、他の声部の声などとの重なりやつながりを聴きながら歌う。 ・全体の響きについて、声量を工夫し、互いに聴きながら歌う。 ・歌を録音してグループで鑑賞し、発見した課題に対して工夫改善しながら歌う。 ☆〔旋律、テクスチュア〕			
	5	○パートの役割を感じながら、他者や他声部の声、全体の響きなどを意識して歌う。 ・部分を取り出しながらパートの役割と響きを確かめて歌う。 ・旋律の流れや曲の山を感じながら、他声部の声を意識して歌う。 ☆〔旋律、テクスチュア〕			
第三次　まとめあげる		◎創意工夫を生かして合唱する。			
	6	○どのように歌唱表現するかについて、思いや意図をもち、様々な歌唱表現を試す。 ・創意工夫を生かした表現をするために学級全体で対話をしながらより表したい表現になるように何度も試す。 ・思いや意図、全体の響きや各声部の声などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ☆〔音色、旋律、強弱〕		思 観察・演奏聴取	
	7	○楽曲にふさわしい表現で主体的に合唱する。 ・自分たちの表したい曲想表現になっているか聴き合って歌う。 ・課題や修正箇所を創意工夫し、撮影しながら合唱をする。 ○パートの役割を感じ取って全体の響きを感じながら合唱する。 ・これまでの学びを総括したまとめの合唱をする。 ○題材全体の学習と個人の学びの変容を振り返る。 ・個々に振り返ったことを全体で共有し、新たな課題を見いだす。 ☆〔音色、旋律、テクスチュア、強弱〕	技 演奏聴取・ ワークシート		態 観察・ワークシート
	国 7	**★合唱を歌い終えて、感じたことや気が付いたことを振り返る。** **★国語科で学習した力がどのように生かされたか、自分の変容を振り返る。** **★振り返ったことをもとに、学級全体で共有し、日常生活にどのように生かすことができるのか、新たな課題を見いだす。**	合唱コンクール後に振り返ることで学びの変容を自覚する。		

５　実践

（１）目指す生徒の姿

ア　学習の基盤となる資質・能力の育成について

（ア）生徒を見取る際の主なポイント

先述の通り、言語能力、情報活用能力については、「思考・判断・表現」において評価することとしている。

音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

具体的には、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を知覚したことと感受したことを関連付けて考えたり、自分の思いや意図を表現する際に適切な言語を用いて友達と伝え合ったりして、表現方法を創意工夫する姿である。音や言語によるコミュニケーションに加えて、１人１台端末によるクラウド活用により、歌詞や情景、曲のできた背景について得た情報をもとに自分の考えを他者と協働しながら表現方法を工夫していく。言語能力、情報活用能力を相互に関連させて生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて創意工夫するための試行錯誤する姿を見取りたい。

さらに、問題発見・解決能力は、「主体的に学習に取り組む態度」において評価することとしている

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

主体的・協働的に合唱をつくりあげていくために欠かせない、音楽科における言語によるコミュニケーションを充実させ、言葉と音楽を往還させながら曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、自分たちの表現したい音楽表現になるように解決していく姿である。

このように言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力は横断的に働く資質・能力であるため、個々に分けて考えることは難しいと捉える。

（イ）指導と評価の実際

①授業の概要

混声合唱をつくり上げていく中で、重要となる言語活動については、『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　音楽編（平成２９年７月）』「第４章　指導計画の作成と内容の取扱い」、「２　内容の取扱いと指導上の配慮事項」において、次のように記されている。

イ　音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること。

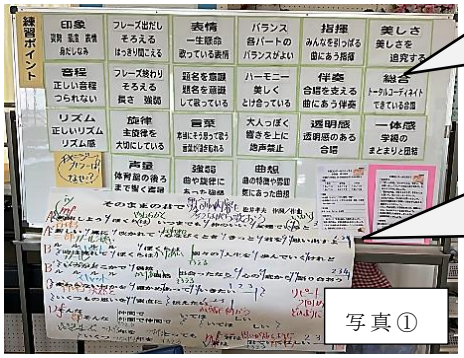
生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図などを相互に伝え合う活動を取り入れることによって、結果として音によるコミュニケーションが一層充実することに結び付いていくように配慮することが大切である。そこで、日常の音楽科経営の中でできる言語能力を育成するためのヒントを紹介する。

【言語能力を育成するために】※問題発見・解決能力にもつなげる

○音楽室の環境構成を整える

・音楽活動を円滑に進めるための学びや練習のヒントとなるものをホワイトボードに掲示しておく。生徒が学習の足跡をいつでも振り返ることができるように視覚的・計画的に掲示する。（写真①）

・グループ活動を円滑に進めるためのアイテムを３学年共通で活用する。（写真②）



写真①

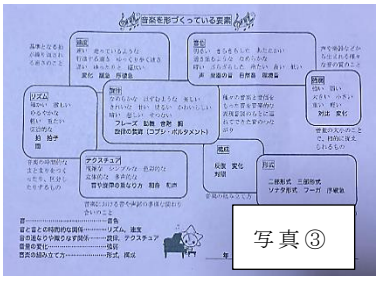
音楽科の特質に応じた言語活動のヒントとなる掲示物が生徒の課題解決の見通しとなる。

国語科の学習で得た歌詞の理解をどのように音楽の構造と関わらせて表現するのか、創意工夫した足跡を掲示しておく。

写真②

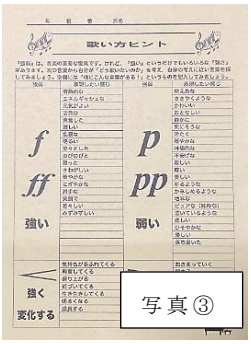
○生徒の学びを深めるためのヒント集を充実させる

・知覚・感受する際のヒントとなる「音楽を形づくっている要素」や鑑賞や歌い方に関わるヒントの言葉集を年度当初に配付し、コミュニケーションを図ったり、思いや意図を伝える際、表現をする際のヒントとして活用したりすることができるようにする。（写真③）

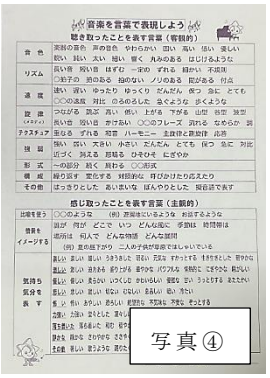


写真③

写真③



写真③



写真④

・鑑賞の際、聴き取ったことを表す言葉として生徒がこれまで知覚・感受した言葉を集めておき、ヒント集を積み重ねていく。（写真④）

※今回は音楽ファイルに積み重ねているが、１人１台端末によるクラウド活用をすることで、他教科でも活用の幅が広がる。

・合唱コンクールなど、全校で共通して学習する際には、生徒、職員ともに共通理解できるヒント集のようなものを全職員に配付する。他教科でも学びのヒントとして活用することで、校内の音楽科の特質に応じた言語活動がより充実することができる。（写真⑤）

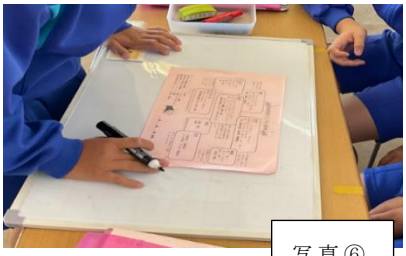
写真⑤

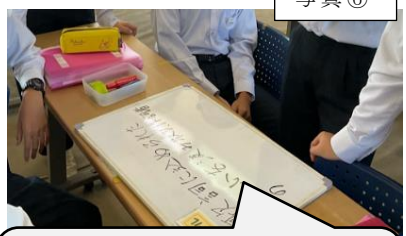
○生徒の主体的なグループ・パート学習を推奨する

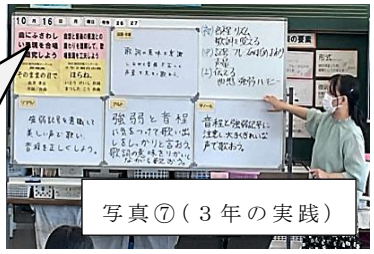
・生徒は音楽室に入室したらすぐに、前時の課題を生かした目標をグループで話し合って決める。

※音楽を形づくっている要素のヒントカード（写真③）を活用しながら、学習の目標を話し合っている様子が見て取れる。（写真⑥）

・対話や音によるコミュニケーションの場を生徒が必要とするような声掛けをしていく。
・グループの課題が明確になり、他のグループにも課題が共有できるように視覚化する。（写真⑦）
・学習を振り返る際にも、音楽を形づくっている要素と関連付けながら振り返ることができるよう、自分なりの言葉で表現することを奨励する。
・振り返りは常に蓄積し、自分の学びの変容を自覚できるようにする。


写真⑥


対話を通して、生徒一人一人の音楽に対する価値意識を広げることにつなげる。


写真⑦（３年の実践）

前時の学びから各パートが立てた目標を教師が適切な音楽言語で整理して、生徒に返すことが重要である。生徒は自信をもって音楽表現を創意工夫しようとする。

【情報活用能力を育成するために】

千葉県学校教育情報化推進計画「情報活用能力育成のための体系表」から生徒の実態をもとに、１人１台端末の活用を推進していく中で、生徒の情報活用能力を次のように育成していく。

○端末の操作スキルを身に付ける学習の場を工夫する　＜知識及び技能＞
・キーボードの正確な入力と録音や動画の撮影スキルを身に付ける。
・発表アプリでの発表用資料作成と振り返りを協働編集ソフトで行う。

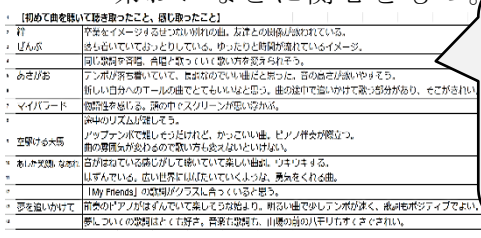
○目的に応じて情報メディアを選択して情報を収集し、整理、分析する時間を確保し、随時更新するようにする　＜思考力、判断力、表現力等＞
・授業以外でも興味・関心に応じて調べ学習を実施したり、自分たちの演奏を録画して確かめたりする等、端末（クラウド上）で共有する。
・国語科の発表アプリで作成したスライドを友達と共有することで、歌詞の理解について対話を通して曲想表現の工夫につなげていく。

○情報に関する個人の権利とその重要性を尊重する（知的財産権、著作権）
＜学びに向かう力、人間性等＞
・作詞・作曲者の著作権を尊重する学習を位置付ける。
・合唱コンクールの際の情報の扱いについて、保護者を含めて啓蒙する。

②実際の生徒の姿

【第１次】「見いだす」

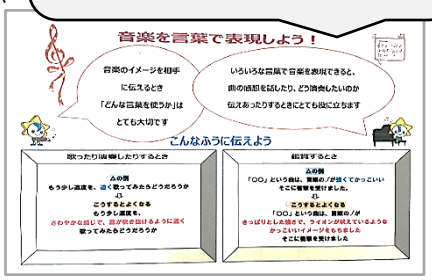
音楽科◎楽曲の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。



【初めて曲を聴いて聴き取ったこと、感じ取ったこと】	
祈	平安をイメージするせつない雰囲の曲。友達との関係が歌われている。
ぼんぼ	落ち着いていておっとりしている。ゆったりと時間が流れているイメージ。
	同じ歌詞や言葉、表現が歌っていく歌い方が見られそう。
あきがお	テンポが所々書いていて、はがねのでいい曲だと思った。音の高さが高いやすそう。
	新しい自分へのエールの曲でとてもいいなと思う。曲の途中で強いかけて歌う部分があり、そこがきれい
マイバフード	情景を感じる。頭の中でスクリーンが思いうかべ。
空駆ける大鷲	途中のリズムが難しそう。
	ノッファンドで難しそうだけれど、かっこいい曲。ピアノ伴奏が際立つ。
	曲の雰囲気が変わるので歌い方も変えないといけない。
あしか笑顔なぞれ	音がはねている感じがして楽いていて楽しい曲だ。リキリキする。
	いずんでいる。広い世界に広がっていくような、勇気をくれる曲。
	「My Friends」の歌詞がクラスに合っていると思う。
恋を追いかけて	前奏のピアノがはずんでいて楽しそうな始まり。明るい曲で少しテンポが速く、雰囲もポジティブでよい。
	夢についての歌詞はとても好き。音楽的歌詞も、山場の海のパートリズムすごくきれい。

楽曲を聴いて知覚・感受したことを協働編集ソフトに書いて、学級で共有することで、楽曲の特徴に気付きやすくする。

音楽を言葉で表現するためのヒントカードを生徒に配付し、歌ったり演奏したりするときの言葉の使い方や伝え方のヒントとして活用する。



・歌詞の音読をして語感を楽しんだり、特徴を確かめたりする。

国語科

・５月に学習した「情報を整理して書こう」をもとに、「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」「情報を引用しよう」の３つの小単元を学習する。端末を用いてレポートを書く際に教科書を読み、情報の集め方や引用の仕方を学び、「根拠を示して説明しよう」の際にも再度確認をする。

・著作権の学習をした後の生徒の感想（一部抜粋）は以下の通りである。

著作権学習より（生徒の感想）

・著作権は音楽を作った人がもっていて、録音やCDをコピーしたりして音楽を利用する人は作った人に了解をとらなければいけないことが分かった。音楽以外にも小説、絵画、写真も対象になっている。作品をつくることは簡単なことではなく、作った人の努力と時間で作られているので、作った人を応援するためにきちんとお金を払ってCDを買おう、作品を楽しもうと思った。自分も将来、作品を作る仕事をしたいので、作る側として著作権をもっと知ろうと思った。将来、作品を作り、自分の作品が勝手にアップロードされてしまった場合、落ち込むかもしれないが、許可なしにしてはいけないと伝えられる人になりたいと思った。作品を大切にしながら楽しみたいと思う。

・自分たちが歌った合唱曲も作品であり、その作品にも著作権があるのだなと理解した。そして、自分たちがその作品を再現することはとても難しいと思った。本当に作詞者や作曲者の思いを感じ取って発表できたのかなと、終わってから考えた。

・私たちの生活の中には、いろいろなところに音楽著作権がかくされていることに気付いた。駅の発車メロディーや映画音楽等、こんなところにも著作権が支えていることを初めて知った。そして、ハッピーミュージックサイクルを意識して音楽を楽しみたい。

・著作権があることで、新たな音楽が作られており、音楽は簡単に作れるものではないので、正しく音楽を楽しんでいこうと思った。１つの音楽を創るためにはたくさんの人が携わり、音楽を伝えたいという思いやそのための努力が込められているので、その人たちの権利を守っていくためにも著作権が大切であることが分かった。

音楽の授業においても、授業の中で表現したり鑑賞したりする多くの曲について、それを創作した著作者がいることや著作物であること、この著作物が知的財産であること、その知的財産を教材として活用することで、表現や鑑賞の幅広い活動が行えることに生徒が気付くことで、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につなげる。

・「鑑賞文を書こう」では、合唱曲の歌詞の鑑賞をしている際に音楽の授業で活用している音楽ノートと音楽ファイルも机上に準備し、随時参考にしながら学習を進めた。音楽科教諭から出された「歌詞の研究をしよう」のプリントを活用し、歌詞についての解釈をグループやクラスで話し合い、書き込みを加えている生徒も多く見られた。

【第２次①】「自分で取り組む」

音楽科◎パートの役割を感じながら合唱する。

歌詞カードに自分の表したい表現について作曲家が記した強弱記号の意味や思いを書き込む。

知覚・感受したことと楽譜の記号を関連付けて考えながらどのように歌うかについて、楽譜を確かめたり、歌い合わせたりして思いや意図をもつ。

国語科の「詩の世界」の学習を受け、生徒の歌詞への理解がより深くなる。知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲に対するイメージを膨らませ、個々に歌唱表現を創意工夫していく。

国語科「詩の世界」※各学級の自由曲の鑑賞文スライドから

卒業し、違う学校に行ってしまう「僕」と「君」の友情を切れないようにずっと守り抜こうという気持ちを歌っている歌だ。「時が過ぎ遠く離れても忘れないよ」というところは、卒業し、大人になって関わることが無くなっても一緒に過ごしたことは忘れないという事だと思う。

この歌詞から、２人が本当に仲が良かったという事が伝わってくる。お互いのことを凄く大切に思っていて素敵だと思った。

「絆」

この歌は、主人公とあさがおを重ねて歌っている私たちへの応援歌だと思います

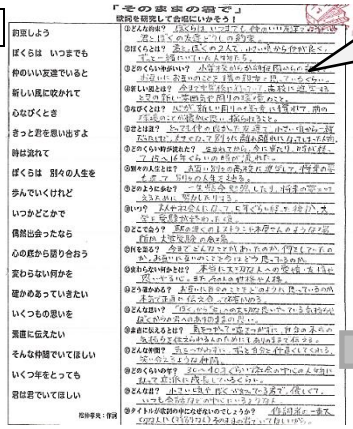
まず、「負けないって強い心で立ち上がって進んでも負けそうな弱い自分に寄りかかってしまう」という部分から、主人公は落ち込んでいるということが読み取れます。でも、その後の歌詞に「まっすぐ空に伸びていく花はこんなに暑い日差しにも負けない強さがある」という部分があり、主人公は暑い中でも頑張って咲いているあさがおに、勇気をもらいます。このことから、この曲は作詞者が「僕」と「あさがお」を通して私たちにエールを送ってくれている曲だと思いました。

また、作詞者がなぜ、ひまわりではなくあさがおを選んだのかを考えたとき、私は、あさがおがつるを支柱などに絡ませながら花を咲かせるということを人に喩えたとき、自分の力だけで目標に向かっていくのも大切だが、たまには他の人の力も借りながら頑張ることが大切だよということを私たちに伝えるために、「あさがお」という花を選んだのではないかと思いました。私はこの曲を聞いて、前向きになれました。これから何か悩み事があったときこの曲を聞きたいと思います。

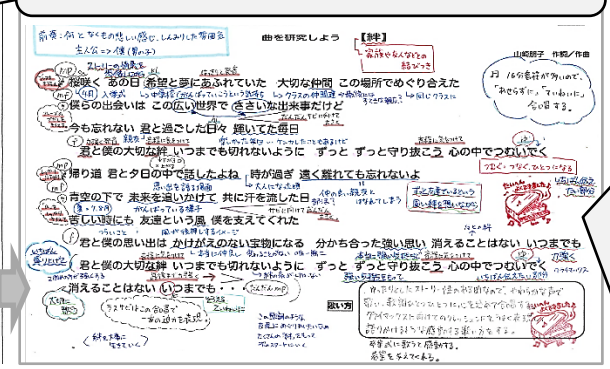
「あさがお」

【第２次②】「広げ深める」

音楽科



一つ一つの歌詞を、より具体的に掘り下げて解釈をすることで、作詞者の思いや情景を理解する。



友達との対話を通して、生徒がこの曲をどのように伝えようとするか、作曲者や作詞者に思いを馳せて思考している様子が見て取れる。

・国語科で学習した鑑賞文をもとに、各パートで試行錯誤しながら、曲想表現を工夫していく。楽譜に記載されている強弱を見て「ここはｆだから、もしかしたら作曲者が強調したいことかもしれない」と話し合い、その表現方法を実際に歌って試しながら工夫している様子が見られた。
・自分のパートの役割を感じながら歌うために、旋律の流れや曲の山を意識して表現しようとする姿が各パートで見られた。

【第３次】「まとめあげる」

音楽科◎創意工夫を生かして合唱する。

どのような歌唱表現するかについて、思いや意図をもち、様々な歌唱表現を試す。

＜思考・判断・表現＞　観察・演奏聴取

○「おおむね満足できる」状況と評価した例　「歌で追求する」
表情よく自分の思いを音楽を形づくっている要素と関わらせ、歌にのせて表現している。

○「十分満足できる」状況と評価した例　「実感を伴った表現」
「これができた」という思いをもちながら豊かに表現している。

○「努力を要する」状況と評価されそうな生徒への支援の例
その生徒ができそうな音楽を形づくっている要素を働かせて友達（教師）とともに一緒に表現する。

楽曲にふさわしい表現で主体的に合唱する。

＜主体的に学習に取り組む態度＞　観察・ワークシート

○「おおむね満足できる」状況と評価した例
歌詞や曲のよいところを探して自分で表現している。（主体的に向き合う姿）
その曲のよさを発見して表現している。

○「十分満足できる」状況と評価した例
自分一人でも思いや意図（作詞・作曲者の）を表現している。

○「努力を要する」状況と評価されそうな生徒への支援の例
友達や人と関わり、表現のヒントを得られるよう一緒に歌って表現する。

鑑賞して

入学して初めてあった友達との３年間の思い出を振り返って、この思い出と絆をいつまでも大切にしていこうという歌だと思った。
私はまだ１年生で始まったばかりかもだけれど、今こうして話したり行事を一緒に成功させている思い出が卒業するときに「大切な絆だったんだな」と思えるような生活をしたいなと感じた。

「絆」について思うこと

「絆」を歌って、初めはどこかなんとなくな絆だったけれど、だんだんと一つ一つの歌詞に意味を持って歌えた気がした。特に「君と僕の大切な絆」という部分に一番感情を込めた。２組の絆はいつまでも切れない大切な絆だという気持ちを込めて歌うことができた。歌い終わって、あと半年しかないけれどこの絆はいつまでも１番の宝物になると思った。

「絆」を学んだことの意味や価値などを生徒が自覚している。

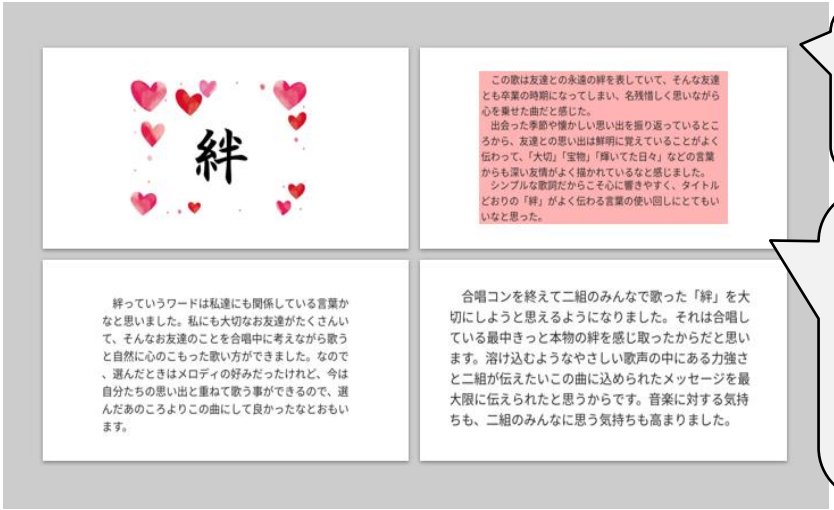
【生徒のつぶやきやワークシートの表記から言語能力に関すること（一部抜粋）】

・課題曲、自由曲ともに「友達」に関する歌なので、歌詞の内容からどちらもやさしい感じで表現し、伝えたい。
・歌詞の内容を考えながら歌うと、歌が上手になった気がする。
・今まではただ歌っていただけだったけれど、歌詞の意味を考えて歌うようになった。
・一番伝えたい歌詞の部分に気持ちを込めて歌った。また、言葉通りに、本当にそう思って歌うようにした。
・歌詞の意味を考えることは楽しいけれど、難しい言葉もあって苦戦した。想像できても、それを言葉にするのは大変。
・歌詞の内容を考えるよりも、音程がうまくとれなくて、何をがんばったらよいのかわからなくなる時がある。
・実は友達のワークシートを参考にしてしまった。

生徒は、関連性をもちながら表現をしている。歌詞の内容を表現に生かして歌うことが目標にあがっていても、正しい音程、フレーズの最初と最後をあわせるなどの自己評価が先に出てしまう生徒が見られる。1時間の練習過程の調整、振り返り時の声掛けが必要である。

本題材では、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を育成したい資質・能力の一つとしている。生徒の中には上記のように歌詞の内容を考えるよりも、正しい音程で歌うことに困難さを感じている生徒もおり、そのように試行錯誤している生徒に適切な機会に適切な助言や支援をしていくことも重要である。「努力を要する」状況と評価されそうな生徒は、何を記述したらよいのかが分からない部分もあり、「十分満足できる」状況の生徒の意見を参考にしながら記述するよう促す必要がある。他者参照や途中参照が可能な１人１台端末のクラウド活用は、友達のワークシートや考えを参考にできるため、大変有効であった。

【生徒が作成したスライドや活用状況から情報活用能力に関すること】



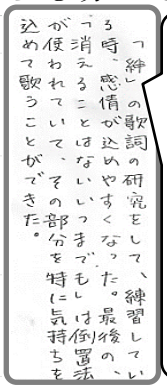
端末の操作スキルを身に付ける場を随時設けたことで、協働編集ソフトや録音、撮影スキルを身に付けて活用している。

音楽科と国語科の授業でその都度、学習した足跡を蓄積したことで自分の学びの変容を捉えていた。発表アプリで自分の思いを込めて作成したスライドを友達と共有することで、歌詞の理解について対話を深め、曲想表現を創意工夫する際によく活用していた。

【生徒の主体的な学びによる問題発見・解決能力に関すること】

題材を通して、生徒が自己の課題に向き合い、課題に向かって粘り強く自己調整しながら取り組んできた。作詞・作曲者の思いや意図を鑑み、表したい音楽表現になるよう試行錯誤した成果が題材後のまとめからも分かる。

音楽に関することで学んだこと	歌を歌うときに、音楽に関することでこれから頑張ろうと思うこと	どのような音楽的工夫や表現をしたか	合唱活動を通して、自分自身への音楽的な考えや表現において、成長や変化したこと
同じ曲を歌っても、歌詞の意味を考えて抑揚をつけたり、美しく皮肉声にしたりと工夫することで、その曲の魅力を伝えられて１曲でみんなを一つにできる。	ただ歌を真似するだけではなく、歌に合った表情、声量、響かせ方など、歌の細かいところを意識して思いを伝えられる歌にできるように頑張りたい。	強弱や休符を生かせるように他のパートの歌声を聴いて音を区切る場所や息継ぎのタイミングを工夫した。	最初は音程やリズムがずれてしまい、みんなの歌声を一つにするのが難しいと思っていた。練習を重ねていくと声がそろって、歌うのが楽しくなった、みんなの心が一つになると歌が変わるイメージが歌声の表現で変わった。
よい合唱をつくりには、歌詞の内容も考えて表現したり、強弱を山場で大きくつけたり、フレーズの出だしや終わりを他のパートと揃えたり、のばすときには楽譜通りにのばすことが大事だと思いました。	違うパートの人や周りの人の声をよくきいて、自分も歌うようにしようと思います。指揮者を見て、大きく息をすことをより意識しようと思います。山場や転調するところでは、より大きく強弱をつけようと思います。	伴奏を弾くときに、強弱をつけて、右手と左手の小指の音を一番大きく出せるようにしました。美しく響くような声できょっ弱を付けて歌うように意識しました。歌詞に合った感じで表情や表現をして歌いました。	最初はただきれいに歌えばいいものになると思っていましたが、練習するにつれて、違うパートでもそろえて歌詞の内容や作詞者の気持ちを表情に表したり、表現したりすることも大事だと思いました。
音楽のすばらしさを学べた。また、楽譜の強弱記号の表現一つで曲の印象が全く違うことも学んだ。	歌詞の意味以外にも、音楽記号から作者の意図を読み取って歌う。声の質を研究したい。	歌詞にふさわしい表現を意識して歌った。また、強弱記号も「なぜ、ここはｆなのか」ということなどを考えて歌った。	「音楽」への考え方を成長させることができた。また、今まで楽譜だけ見ていたけれど、ただ見るだけじゃなく、作詞曲他のイメージ、歌がつくられた背景を考えられるようになった。



国語科のノート記述から

（２）実践を終えて

１　学習の基盤となる資質・能力の育成について

１年生が初めて本格的な混声合唱に取り組んだ本実践を終えて、改めて教科等横断的な視点に立った授業は、「楽しい！」と感じた。国語科の担当職員や学級担任とゴールの姿を共有し、各教科の年間指導計画を確認したり、情報交換をしたりすることで、指導者だけでなく生徒自身もその学びを実感していたからである。

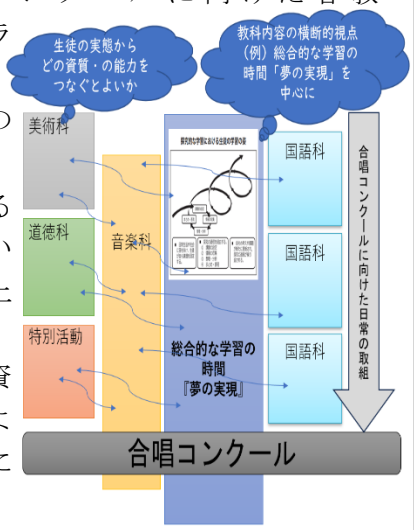
「言語能力」の育成については、音楽科と国語科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるように指導を工夫した。特に歌詞の理解や鑑賞文の作成、言葉によるコミュニケーションにおいて、大きな効果を得ることができた。さらに、自分たちが表したい音楽になるように、自分たちの学びについて振り返りを蓄積すること、語彙を広げること、イメージしたことを音楽で表すために対話や音で試行錯誤を繰り返して創意工夫したことが「問題発見・解決能力」の育成につなげることができた。

「情報活用能力」の育成については、端末を常時活用することで、生徒の操作スキルや協働編集作業による情報共有等が効果的に行われた。また、題材の最後に一人一人が自分の端末を持って撮影しながら合唱し、二回撮影した中で自分の表したい表現になっている動画を選んで指導者に提出することで、学習に対する自己の変容を自覚できるようにした。国語科で作成したスライドを活用することで、生徒一人一人の音楽に対する価値意識を広げ、生徒の学習意欲の喚起や定着にもつながった。さらに、著作権について学んだことが汎用的な能力となるように、合唱コンクールの際には保護者にも理解を促すよう生徒から働きかけるなど、生徒の主体的な姿が見られた。

２　教科等横断的な視点に立った評価について

評価について、学習の基盤となる資質・能力については、教科の育成したい資質・能力とどのようにリンクしているか見極めが非常に難しい。どの資質・能力にも個別に測れるものではなく、関連性があるからである。音楽科としては、感性を育成する教科であることを前提とし、育成したい資質・能力にこれらの資質・能力がどのように働くのかを考慮し、適切に評価に位置付けることで、授業改善につなげていきたい。

最後に、教科等横断的な視点に立った学習の可能性について考えると、本実践では、１年生の実践を取り上げたが、合唱コンクールに向けた各教科の学びを考慮し、１～３年生全学年でカリキュラムの編成を工夫することが可能である。

例えば、実践校では右図のように総合的な学習の時間『夢の実現』の探究的な学びを中心に音楽科、国語科、美術科、道徳科、特別活動などでつなげるよう、カリキュラムマネジメントの推進に努めている。そのため、学校全体として教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化が図られている。

学校経営方針や生徒の実態から、育成を目指す資質・能力を明確にし、どの資質・能力でつなぐとよいか、音楽科の題材を中心に各教科の単元を適切に組み合わせ、調整を図っていくことが望まれる。